

コミュニティ・スクールだより

令和3年度の第十小学校第3回学校運営協議会は、11月10日（水）に開催されました。以下、その概要を記します。

- I 熟議「育てたい十小児童の姿」「そのための具体的実践活動」の2部構成で実施した。「ゆめ部会」「なかよし部会」「げんき部会」の3部会で熟議を行った。

(参考)【学校教育目標 具体目標〔めざす児童の姿〕】

- 「ゆめ」に向かって自ら学びねばり強く取り組む子
- みんなと「なかよく」できるやさしい子
- “こころ”も“からだ”もたくましい「げんき」な子

新島校長より、熟議テーマについて確認後、熟議を行った。

学校運営協議会委員の他に、生涯学習課青少年係新井主任にも熟議に加わっていただいた。

☆「ゆめ部会」

- キーワードは、キャリア教育。
- 学校、家庭、地域でできることをやる。体験を通して、学びを深める。しかけていくことが大事だ。
- 体験を増やして経験値を増やす。子どもと双方向の学校運営協議会委員を意識し、活動すること。
- 家庭学習ができない現状がある。放課後活動の取り組みを考えていくことも必要である。家庭の保護者と連携していく。家庭習慣、親子での活動、学びの環境、親からのしかけ、今後、子どもと親、地域で協働活動ができないものか。
- 宿題という形ではなく、一人一人の児童が自分の興味を掘り下げられる取り組みがもてるとよい。
- キャリア教育を進める上で、勤労観や職業観を育成するためには、近隣の工業団地も教育的資源になる。
- 実際の工場での見学や体験、そして現場の声を聞くことは児童にとって生きたキャリア教育になる。
- 身近な活動では、掃除は大事な活動だ。掃除したところがきれいになることは、達成感や成就感が味わえる。家で何かの手伝いをしているか、子どもに何かできることをさせることだ。
- 子どもにとっては、何より眼や耳で感じて体験したことが身につく。どんなことでも体験し、そこから調べて掘り下げると、自主的な活動や行動ができるようになる。
- 目的意識、達成感が得られると、子どもの成長につながる。
- 親や地域の方々とともに、地域の活動をすると、地元意識や周りの人のやることに興味や関心がわく。

☆「なかよし部会」

- 外国籍児童の支援を今後も継続して行っていく必要がある。
- 公民館でも、外国籍児童とその保護者に対しての支援を企画したが、コロナ禍のため、できなかった。
- 放課後における児童への支援を、外国籍児童のみならず、児童全体に目を向けて企画できるとよい。
- 学校区の工業団地との連携・パイプが強まってきたので、さらにいろいろな企画が今後考えられる。
- 地域、学校、家庭との連携がより密になるとよい。
- あいさつをしてくれる子が多くなってきた。(八小、十小、多中) 子ども達が進んで声をかけてくれる。
- 放課後子ども教室などの体験や経験をとおして、子ども達が道徳的な実践もできるとよい。
- 学校区の工業団地見学は、地元の人も大歓迎している。
- 子ども達には、公民館西ダッシュ村等の活動とともに、公民館利用団体の方とも関わる機会があるとよい。
- 公民館利用団体と子ども達との交流は、グランドゴルフ、料理(女性セミナー)など、いろいろ考えられる。
- 学校区の工業団地との連携で、子ども達に世界的・地球的な視点からものを考える力もつくと思う。

☆「げんき部会」

- コロナ禍の環境や生活スタイルが、子ども達に影響している。
- 地域のいろいろな行事も、コロナ禍で子ども達が集まる行事がなくなってきている。そのため、地域の人と子ども達とのかかわり合いがなくなった。
- 友だちとの遊びで大きな声が出せないことや、給食時の黙食など、子ども達のストレスになっていると思われる。
- マスクをしていると、相手の表情が分からなく、相手の気持ちを読めないこともある。
- 子ども会の廃品回収もなくなってきている。廃品回収は、子ども達にとって有意義な体験活動になっているが。
- 地域でも外で遊ぶ子を見なくなった。公園でも子どもを見かけない。スポーツ少年団も減ってきている。塾や習い事が優先か。
- 学校でも1学期は、子ども達のけがが多かった。
- 学校でのけが防止ストレッチを家庭に啓発していくとよい。
- マスクをしているために、視野が狭くなっているのではないか。また、集中力が欠けたり、息が上がったりすることもある。
- 子ども達の歩く時間が少なくないか、車での送り迎えも少なくないか。
- 子ども達は、歩いたり、走ったりの平面的な動きはしているが、跳んだり、はねたりする上下の空間的な動きが少なくなっている。
- 学校の先生もコロナ禍の影響もあり、仕事も増え大変ではないか。
- 地域や家庭でも運動に費やす時間はどうか、勉強面に時間をかけることが多くないか。
- 放課後に校庭で遊ぶ子が少なくないか、異学年で遊ぶ中で、体を動かすことも大事だ。
- 放課後事業を考えていくこと。
- 児童館、公民館、学童との横の連携ができるとよい。
- 地域では、コロナ禍のため、子どもを集めてやる手立てがない。責任もとれない。
- 学校や公民館など、公的な組織が行事を組み、広げていく取り組みには、地域が協力していくことが可能だ。